

担当領域 欧州、ユーラシア、アフリカおよびPCT条約

体制 3小委員会制（第1:14名, 第2:6名, 第3:7名）

[活動方針]

- ・委員の人脈形成および成長のための気づきの場を提供する
- ・国内外におけるJIPAプレゼンスの向上に繋がるアウトプットを行う

[主な活動内容]

- ・JIPA-EPOとの会合
- ・EPOによるパブコメへの意見発信
- ・統一特許裁判所準備委員会によるパブコメへの意見発信
- ・PCT規則改正等に関する意見発信

[主なアウトプット]

- ・知財管理誌掲載の論説、『欧州特許を上手に取得する方法』



EPOとの会合(@東京)



WIPO本部(@ジュネーブ)

第1小委員会 欧州における知財関連制度に関する調査・研究

[活動テーマ1] 『欧州特許を上手に取得する方法』の改訂

狙い 会員にとってより使いやすく、最新の欧州情報を盛り込んだ資料を目指す

内容 前回改定時（09年）からの主な変遷を俯瞰し、「上手な取得法」に取り込む

- ・ロンドンアグリーメント（翻訳の軽減）の拡大
- ・2010年EPC規則改正（分割ルール新設→廃止）
- ・審査促進の各種手法（PPH, PACE, 応答期間の短縮等）
- ・統一特許裁判所（UPC）、単一効特許（UP）
- ・グローバルDSEシステムの構築



より良い取得法の議論を踏まえ、鋭意改訂中

[活動テーマ2] EP口頭審理に関する研究

狙い EP独自の制度である審査時の口頭審理を研究し、上手な対応法を提案する

内容

- ・審査段階口頭審理召喚後の権利化を上手く進めるための調査研究を実施
- ・予備的請求提出状況、審査官への電話連絡の状況を集計
- ・ドイツ・フランス出願人は拒絶よりも許可になる出願が多い。その理由を考察し、日本の出願人に活かさないか？を検討中

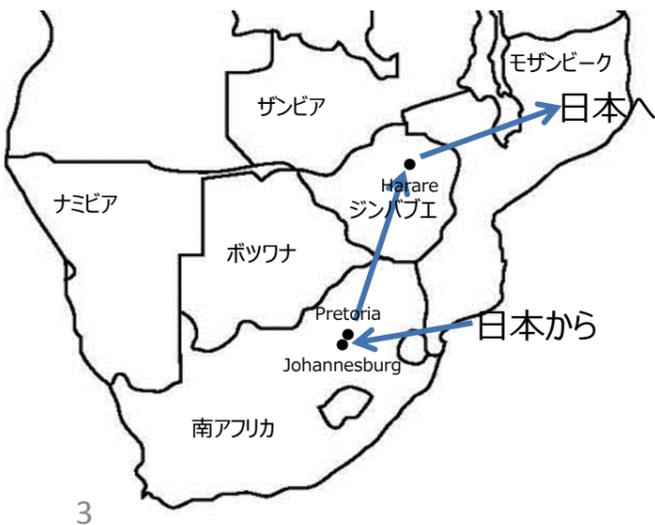
活動結果は知財管理誌に投稿予定！詳細は論説を御確認下さい！

第2小委員会 アフリカ諸国の特許取得・活用に関する検討

アフリカ諸国の知財環境・経済状況の調査・検討および調査団派遣

狙い	経済発展が進むアフリカにおける知財の位置づけや訴訟制度などから知財環境を把握し、知財活用の可能性・有効性を調査する
内容	9/6～10 南アフリカ・ジンバブエ調査団を派遣 主な訪問先：ジェトロ・ヨハネスブルグ事務所 企業知的財産権委員会（CIPC） 南アフリカ高等裁判所 南アフリカ歳入庁（SARS） 特許事務所（Spoor & Fisher, Adams & Adams, Kisch IP） アフリカ広域知的財産権機関（ARIPO）

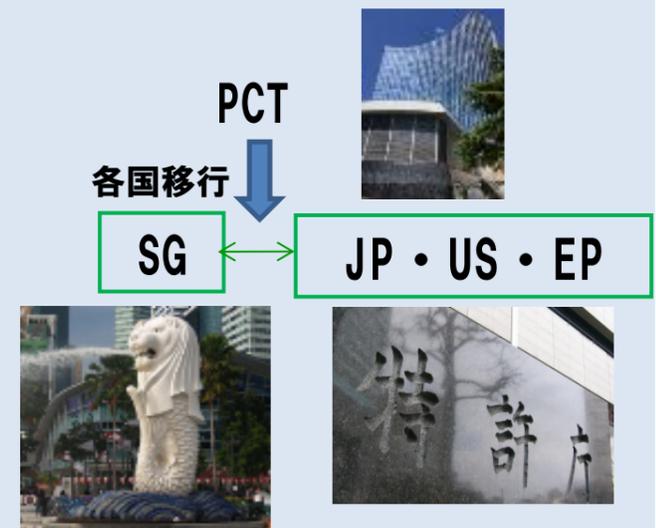
JIPAとして初めてアフリカ地域へ調査団を派遣、詳細は調査団報告書にて！



第3小委員会 PCT制度に関する検討

PCT出願が、日米欧中以外の国へ移行された際の考察

狙い	シンガポールに移行する際のPCT制度の有用性について考察する
内容	<p>PCT制度を利用してシンガポールに移行された国際出願について、主に「国際調査報告における特許性に対する見解」と、「シンガポール移行後の審査結果」とを対比することにより、同国での権利取得におけるPCT制度の有用性を考察する</p> <ul style="list-style-type: none"> SGの移行後審査結果 国際調査報告の肯定的見解（進歩性：有）と、他国審査情報（JP特許査定（PPH））の積極活用により、早期に登録された案件が多い 英語PCT出願の国際調査機関（JPO/EPO） 電気・機械系出願は、JPO 製薬・バイオ系は、EPO の選択が多い シンガポール特有の実情調査及び情報提供 審査ルート（通常or修正実体審査請求）の違いによる、SG移行～特許までの日数比較など



考察結果は知財管理誌に投稿予定！詳細は論説を御確認下さい！